

⑩宗教界での差別事件

二〇〇四年一月二日、長野県で浄土宗が差別戒名墓石関係寺院研修会を開催、その分散会での意見交換では、「被差別部落出身者でない人の中に、寝た子を起こすなという意識がまだ強い」、「結婚問題も表面にはでないだけで、差別の現実は地下にもぐっている」、「差別意識の撤廃も以前より進んでいるがまだまだ時間がかかる」等の発言があった。今回は直接の差別事件は掲載されていないが、決して問題が解決してはいないという現場での認識が窺える。

その他、差別戒名供養は曹洞宗や高野山真言宗でもとり行われており、同じような認識のもとこれからの部落差別撤廃への取り組みが確認されている。